VOGUE

不要な服＝ゴミじゃない！古着回収でサーキュラーファッションを実現しよう。【今週のサステナ Tips】

By MINA OBA

2020 年 5 月 25 日

夏へと向かう今、クローゼットに眠る不要な服を整理している人も少なくないのでは？ でもちょっと待って。着なくなった服をごみとして処分する前に、もっとサステナブルな選択肢がないか考えてみよう。

古着のサーキュラー・エコノミー。

BRINGのポップアップショップ（MeCA会場 表参道ヒルズ）。「あなたと、服から服を作る」をブランドコンセプトに、主力のBRING Tシャツの販売と服の回収を実施。Photo: BRING | 日本環境設計株式会社

ある2017年の調査によると、毎年世界のファッション産業からは、9200万トンの繊維が廃棄され、10年後にはさらに5700万トン増えると予測されている。こうした廃棄を減らすべく、今ファッション業界では古着のアップサイクルやリユース、あるいは最新技術で古い繊維を新しい素材に変えるリサイクルなど、「古着の循環」が推進されている。ゴミとなるはずだったものから新しい価値を生み出すために、私たち消費者ができることをいくつか紹介しよう。

「古着の循環」と聞いてまず思いつくのが、最近よく見かけるようになった衣類の回収ボックスだ。日本では古着の90%は回収されることなく焼却されているが、この問題を解決すべくスタートしたのが、回収した服をリサイクルして作ったウェアを販売する「BRING™」だ。

提携先の小売店に設置したBRINGの回収BOXに持ち込まれた古着は、一度ソーティングセンターで分別され、まだ着られるものは寄付やリユースされる。では、この分別から外された服はどうなるのか。ここで登場するのが、最新テクノロジーだ。

実は、衣類のおよそ60%はポリエステル繊維を使用し、その生産には多くの石油化学燃料が使われている。こうした化繊を新たに石油から製造することを減らすべく、BRINGではもう着られなくなった服に用いられたポリエステル繊維の不純物を取り除き、精製してからポリエステル樹脂にまでリサイクルする独自技術を開発。再び糸から生地、そして服へと生まれ変わらせている。さらにBRINGのオンラインストアで服を購入すると、回収用の封筒が同封されている。購入後も循環を促す仕組みをつくることで、サーキュラー・エコノミーを実現しているのだ。

また、世界50カ国以上で服の回収を展開しているプロバイダー「アイコ（I:CO）」と提携しているのは、H&Mやザ ノースフェイス（THE NORTH FACE）などを展開するゴールドウィン（GOLDWIN）だ。店舗に設置された回収コンテナには、自社ブランド以外の衣類や靴を持ち込んでもOK。回収されたもののうち、再使用できないと判断されたものはリサイクル繊維として自動車産業や建設産業で断熱材や防音材に加工されるなど、さまざまな形で再活用される。一方、使用可能なものは古着として活用されるが、そこから得た過剰金は、リサイクル繊維の研究機関などに寄付されている。

VOGUE

社会貢献までできる。

古着deワクチンに集まった寄付金は、認定NPO法人「世界の子どもにワクチンを 日本委員会」へ贈られ、ミャンマー、ラオス、ブータン、バヌアツへワクチンが届けられる。Photo: 日本リユースシステム株式会社

古着回収が社会貢献につながる取り組みもある。「古着deワクチン」は、その名の通り古着を寄付することで開発途上国の子どもたちにワクチンを提供するプログラム。参加方法は、専用回収キットを購入し、自宅で要らなくなった服を回収袋に詰めて送るだけ。回収キット1口につき、途上国の子どもたち5人分のワクチンを寄付することができる仕組みだ。また、回収された服は同じく途上国へ送られ再利用されるのだが、現地の人々に服の仕分け作業を委託することで、新しい雇用を創出している。

また、「羽毛循環システム」の実現を目指しているのは「Green Down Project」だ。羽毛は、再生可能資源であるにも関わらず多くがゴミとして焼却されてしまっている。同プロジェクトは、提携店舗に設置した回収BOXに持ち込まれたダウンジャケットなどから羽毛を取り出し、環境負荷の低い方法で利活用することで、水鳥の命を守り、羽毛生産に用いられる薬品による環境汚染を食い止めようという試みだ。

また、「羽毛循環システム」の実現を目指しているのは「Green Down Project」だ。羽毛は、再生可能資源であるにも関わらず多くがゴミとして焼却されてしまっている。同プロジェクトは、提携店舗に設置した回収BOXに持ち込まれたダウンジャケットなどから羽毛を取り出し、環境負荷の低い方法で利活用することで、水鳥の命を守り、羽毛生産に用いられる薬品による環境汚染を食い止めようという試みだ。

これら以外にも、自治体が行っている衣類リサイクルや近くのリユースショップ、あるいはネットオークションやフリマサイトでの販売など、古着の回収方法はいろいろある。とにかく大切なのは、不要な服＝ゴミではなく、貴重な資源であると知ること。クローゼットで眠っている服を次なる命へとつなげるアクションを、みんなで起こそう。